

1 学年 道徳学習指導案

指導者 教諭 福田 勝雄

1 日 時 平成25年7月5日(金) 第2校時 南校舎4階1年3組教室

2 学 級 盛岡市立上田中学校 1年3組 男子14名 女子15名 計29名

3 主 題 「正義、公正公平」【4-(3)】
「正義ってなに？」(出典 『中学道徳1 明日をひらく』東京書籍)

4 主題について

内容項目4-(3)は「正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める」ことを目指している。中学生になると、社会のあり方にも目を向け始め、現実の社会がもつ矛盾や課題に気付き、理想を求める気持ちや正義感も強くなっていく。その反面、周囲の目を意識し、多くの意見や考えに左右されたり、自己中心的な考え方や行動をとったりしがちになる。そこで、自己中心的な考え方から脱却して、公のことに自分とのかかわりや社会の中における自分の立場に目を向け、社会をよりよくしていこうとする気持ちを育てていきたい。

本学級の生徒は、自分の考えをもち積極的に活動を推進しようとする生徒がいて、その生徒を中心に学年行事や体育祭などの諸活動に取り組んできた。入学から3か月が経ち、リーダーシップを発揮する生徒とそれを支える生徒が見られるようになり、共に取り組んできたが、リーダーの指示に対して、よりよい方法を意見する生徒がいたり、自分の考えを公にできずに不満を漏らす生徒がいたりする。

本資料は、模擬裁判の役割決めを通して二つの主張が対立し合う葛藤資料である。生徒の生活に密着した内容であり、生徒自身の経験からそれぞれの立場の主張も理解できるため、活発な話し合いを通して正義とは何かを考えるきっかけをつくりたいと考え、この主題を設定した。

5 本時のねらい

「正義、公正公平」【4-(3)】

「正義や公正に関して自他の間での照らし合いがあって初めて、正義を求め、力を合わせていこうとする。」

6 本時の評価

道徳的心情	正義や公正に関して自他の間での照らし合いがあって初めて、正義を求め、力を合わせていこうすることを賞賛的にとらえている。
道徳的判断力	正義を求め、力を合わせていくことの大切さを理解しようとしている。
道徳的実践意欲・態度	正義を求め、公正・公平な態度で力を合わせていこうとする。 【生徒の記述例】 自分の考えの正しさを主張したり、相手の不正を追求したりするのではなく、相手の考えも尊重することが大切だということがわかりました。互いの良さを大切にしながら、話し合っって良い方向に力を合わせていきたいです。

7 本時の指導構想

(1) 「教えて考えさせる授業」にかかわって

本時は、道徳的実践意欲・態度の「正義を求め、公正・公平な態度で力を合わせていこうとする。」を主にねらったものである。

- ①【説明する】……「状況の把握」の過程において、「正義」という言葉が、必ずしも同じように理解されていないことに気づかせ、「正しさ」という言葉に置き換えられてしまうことが感じられるようにしたい。また、主人公を含め主要人物は3人であるため、資料の理解を円滑に進めるために範読前に登場人物を確認する。
- ②【理解の確認】……3人の考えや行動について感想を求め、資料全体の理解度を確認するとともに、登場人物に対する感想をもとに、第一発問へとつなげていきたい。
- ③【理解の深化】……「課題意識を高める」の過程においては、リーダーとしてクラス全体を基準と考えるキャロルと一人一人を尊重しようとするルーシーについてどちらの考えに近いか判断させる。生徒自身の生活経験と合わせながら共感と批判の両方の価値を取り上げる。

「価値の追求」の過程においては、「さくらは、なんて答えたらよいものかと迷ったとあるが、それはなぜか。」の発問で、さくらの葛藤を通して二つの主張には正しい部分があり、どちらもよいクラスを目指していることを気づかせたい。

「変容契機をとらえる」の過程においては、「少しはルーシーたちの言い分も聞いてあげたらどうか」という言葉から、それまで二人の対立に対して傍観していたさくらが、このままではいけないと勇気を持って思いきって話すことにした心情を読み取らせる。

「価値の把握」では、「それぞれの主張する正義は違うが、よいクラスにするためにはどうしたらいいのだろう」という発問から、それぞれが正しいと思って主張していることが本当の正義なのかについて考えさせることで、ねらいに結びつけようとする。
- ④【自己評価活動】……正義や公正公平に関して自他の間での照らし合いがあって初めて、正義を求め、力を合わせていくことの大切さを記述するとともに、自分の行動を振り返り、今後の実践につながるようなことを記述できるようになってほしい。

(2) 「表現すること」にかかわって

本時で大切にしたい「表現する」活動は次の2点である。

1点目は、二人の対立に対して傍観していたが、このままではいけないと勇気を持って思いきって話すことにした主人公の変容契機をとらえる活動である。対立している二つの主張には、クラスをよくしていきたいという共通点があり、主人公もまた同じようにクラスをよくしていきたいと願う気持ちを考えさせたい。

2点目は、自己評価活動である。1時間を通して感じたことや学んだことを考えさせるとともに、今までの自分を振り返らせながら、じっくりと記入させていきたい。

8 本時の展開

段階	過程	学習活動	期待する生徒の反応	指導上の留意点
導入 (10分)	状況の把握	※ 正義って何？ ※ 資料の範読	・正しいことである。	・資料に対する共通理解をさせる。
展開 (30分)	課題意識を高める 価値の追求 変容契機をとらえる 価値の把握	※ あらすじの確認 ※ 感想を求める 1 あなたの考えはキャロルとルーシーのどちらに近い か。 2 さくらは、なんて答えたら よいものかと迷ったとある が、なぜか。 3 さくらが「少しはルーシー たちの言い分も聞いてあげ たらどうか」と言ったのは、 どんな気持ちからか？ 4 それぞれの主張する正義 は違うが、よいクラスにする ためにはどうしたらいいの だろう。	<キャロル> ・みんなが好き勝手言っていることを まとめようとしているのだから、キ ャロルの主張は分かる。 一方的で、自分勝手な言動だと感 じる。 <ルーシー> ・個人を尊重すべきだなんて、もっ ともらしいことを言っている。 ・個人を優先するあまり決まらない。 ・ルーシーたちの「正す会」はいじめ であり、よくない。 ・キャロルやルーシーたちの主張には もったもなところがあるが、どちら も一方的で正しいとは言えないか ら。 ・ルーシーたちがしたことは許されな いが、クラスがこれ以上にひどくな らないようにしたいという気持ちか ら。 ・お互いが相手の立場を理解していく こと。 ・自分の考えや意見を相手に丁寧に説 明すること。 ・主張が通らなくてもいじめなどの行 動に移してはいけない。	・学級をまとめようとする あまり一方的になっている キャロルの主張と、一 人一人を尊重するべきだ というルーシーの主張に 焦点をしばって判断させ ていきたい。 ・どちらもクラスをよくし たいという主張の共通点 を押さえる。 ・それぞれの主張を尊重し つつ、双方の意見をまと めようと努めていること を理解させる。 ・どちらもクラスをよくし たいという考えを理解さ せながら、クラスを目指 すべき正義について考え させる。
終末 (10分)	自己評価活動	※ 価値について考えたこと を記入、発表	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> 自分の考えの正しさを主張したり、相手の不正を追求したりするのではなく、相手の考えも尊重することが大切だということがわかりました。互いの良さを大切にしながら、話し合っって良い方向に力を合わせていきたいです。 </div>	【道徳的実践意欲・態度】 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> 正義や公正に関して自他の間での照らし合いがあつて初めて、正義を求め、力を合わせていこうとする。 </div>

